

木口木版画講座が開催されました

2015年9月1・4・9・16・23・30日（全6回）

木口（こぐち）とは立木を輪切りにした切り口のことです。木口は縦引きした切り口（板目）より堅いので、木口木版画は彫刻刀ではなくビュランを使い、鋭く無数の線を彫り細密な画面を描くのが特徴です。

講師の版画家、鬼塚満寿彦先生と中野彰久先生は永年木口木版画の普及に努めておられます。先生方は受講生の習熟や作品に応じたご指導をなされ、講座は静かで和やかな雰囲気の中行われました。受講生15人はそれぞれの作品を20枚刷り上げ、1枚は会員作品展用に額装し、あとは受講生の作品集に収めます。



鬼塚満寿彦先生



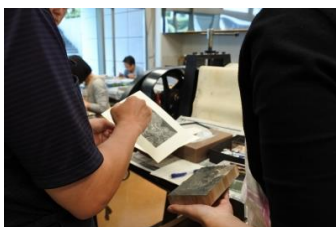
先生の版木と作品



中野彰久先生（左）



ビュランで彫ります



11/18(水)~11/22(日)会員作品展をお楽しみに